

御荘文化センター 図書室だより

発行 * 御荘文化センター図書室 発行日 * 令和3年10月1日

秋の夜長に虫の音が響く季節になり、日増しに秋の深まりを感じる季節になりました。

10月は晩秋の月を愛でる「十三夜」という日本固有の習慣があります。中国伝来の「十五夜」に次いで美しいとされる月です。今年の「十三夜」は10月18日にあたりますので夜は空を眺めてみてはいかがでしょうか。晴れていたら綺麗な月さまが見えるかもしれません。

◇お知らせ◇

先月から始まった夜間開放事業により、開室時間が変更されています。平日の夜間開放がされている日に限り20時まで図書室の利用(貸出・返却)ができますので、ぜひご利用ください。

夜間開放事業に伴い、図書室の閲覧席が移動しております。座席数も増えておりますので日中の読書や勉強にもご利用ください。(※「禁帯出」のシールが貼っている本のみ図書室内の席でご利用ください。)

昨年度から子ども連れの方の利用が増え、ソファで絵本などを読むご家族が多くなりました。閲覧席の移動に伴い、ソファの設置を増やしております。

閲覧席の場所は図書室入り口の掲示板にお知らせを貼っていますのでご確認ください。

10月

○→休室日

月	火	水	木	金	土	日
				1	2	3
4	5	6	7	8	9	10
11	12	13	14	15	16	17
18	19	20	21	22	23	24
25	26	27	28	29	30	31

利用案内

【利用者カードが作れる人】

愛南町在住、在学、在勤の全年齢

※初めての貸出する方は、利用者登録をしてください。

【貸出期間】 2週間

【貸出冊数】 3冊まで

詳細は「御荘文化センター図書室の利用案内」をご覧ください。

【開室時間】 9時～17時/平日夜間開放中は20時まで

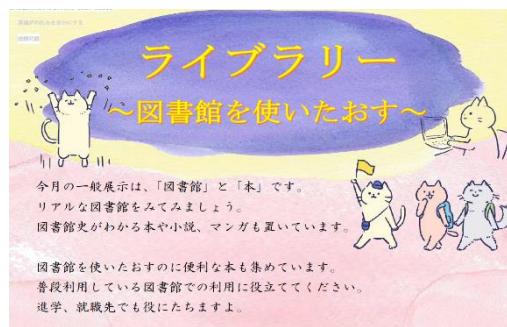
【休室日】 火曜日(火曜日が祝日の場合は、翌開室日が休室)、年末年始、選挙投票日

児童展示コーナー



場所: 棚9 えほんコーナーのたなのうえ

一般展示コーナー



場所: 図書室入口付近 新着図書コーナー裏

新着図書紹介

- 『これからの地方自治の教科書』 大森 彌／他著 (請求記号：318／オワ)
- 『日本の地方議会—都市のジレンマ、消滅危機の町村—』 辻 陽／著 (請求記号：318.4／ツヨ)
- 『ぼくはイエローでホワイトで、ちょっとブルー2』 ブレディみかこ／著 (請求記号：376.3／ブミ)
- 『最新版 最高の二世帯住宅をデザインする方法』 (請求記号：527.1／サイ)
- 『令和時代の公用文 書き方のルール』 (請求記号：816.4／オジ)
- 『文豪の死に様』 門賀 美央子／著 (請求記号：910.26／ブン)
- 『invent 城塚翡翠倒叙集』 相沢 沙呼／著 (請求記号：913.6／アサ)
- 『兇人邸の殺人』 今村 昌弘／著 (請求記号：913.6／イマ)
- 『傷痕のメッセージ』 知念 実希人／著 (請求記号：913.6／チミ)
- 『臨床の砦』 夏川 草介／著 (請求記号：913.6／ナソ)
- 『リボルバー』 原田 マハ／著 (請求記号：913.6／ハマ)
- 『小説8050』 林 真理子／著 (請求記号：913.6／ハマ)
- 『屋根の上のおばあちゃん』 藤田 芳康／著 (請求記号：913.6／フヨ)
- 『いちにちだじゃれ』 ふくべ あきひろ・さく かわしま ななえ・え (請求記号：E／カナ)
- 『SDGsのきほん』 14巻～18巻 稲葉 茂勝／著 (請求記号：J333／イシ)
- 『ものの見方が変わる！世界のことわざ』 時田 昌瑞／監修 (請求記号：J388／モノ)
- 『岬のマヨイガ』 柏葉 幸子／著 (請求記号：J913／カサ)
- 『深夜食堂』 20巻 安部 夜郎／著 (請求記号：M／アヤ)
- 『紫電改343』 3巻 須本 壮一／著 (請求記号：M／スソ)



『リボルバー』 原田 マハ (幻冬舎/2021.05)

誰が引き金を引いたのか？

「ゴッホの死」。アート史上最大の謎に迫る、著者渾身の傑作ミステリ。パリ大学で美術史の修士号を取得した高遠冴(たかとおさえ)は、小さなオークション会社CDC(キャビネ・ド・キュリオジテ)に勤務している。週一回のオークションで扱うのは、どこかのクローゼットに眠っていた誰かにとっての「お宝」ばかり。

高額 of 絵画取引に携わりたいと願っていた冴の元にある日、錆びついた一丁のリボルバーが持ち込まれる。

それはフィンセント・ファン・ゴッホの自殺に使われたものだという。

「ファン・ゴッホは、ほんとうにピストル自殺をしたのか？」

「——殺されたんじゃないのか？ ……あのリボルバーで、撃ち抜かれて。」
ゴッホとゴーギャン。

生前顧みられることのなかった孤高の画家たちの、真実の物語。

(引用「出版書誌データベース」)